

林英哲

『春鼓人宝くしゅんこ・ひとだから』
スペシャルコンサート2023

2022年春、アジア地域の優れた文化の振興と相互理解、そして平和に貢献するため、1990年に福岡市および福岡よかトピア国際交流財団が創設した、福岡アジア文化賞大賞を受賞。日本人の大賞受賞は2013年の故・中村哲医師以来の快挙でした。また11/3付で発表された秋の叙勲においても、芸術文化功労の功績で「旭日小綬章」を受章。孤高の太鼓独奏者としての50年にわたる活躍が広く認められ、多くの人々に影響と感動を与えてきた結果でしょう。

唯一無二の太鼓奏者林英哲が、今回のスペシャルプログラムとして選んだゲストは作曲家でピアニストの新垣隆との、関西では初お目見えとなるDUOの舞台、ラヴェルの「ボレロ」で火花を散らします。後半には手兵、英哲風雲の会との、画家、藤田嗣治の生涯をモチーフにした名作、「レオナルド われに羽賜べ」を和太鼓のみの多彩な音色のスペクタクルでお届けします。2023年春も東大阪で和太鼓の音を体感してください。

— ご挨拶 —

また春が巡って来ました。世の風は激しくとも、春がめぐって花が開くと、何か良いことが起こるような前向きな気持ちになります。春の太鼓は人の宝・そう念じつつ、今回迎えるゲストは、意外なひょうきんさも併せ持つピアニスト・作曲家の新垣隆さん、そして英哲風雲の会の最強面々。今年も東大阪の皆さまに元気な響をお届けしましょう。どうぞお楽しみに！

林英哲

林英哲 (太鼓奏者、作曲・演出家/英哲風雲の会主宰・芸術監督)

佐渡・鬼太鼓座、鼓童の創設に関わり、通算11年間活動。1982年ソロ活動を開始。初の和太鼓ソリストとして、大太鼓ソロ奏法や太鼓群を用いた独奏法の創作、舞台作品の創作、演出、オーケストラとの共演など、前例のない“太鼓音楽”の表現を築き、国内外で活躍中。欧米を始め54カ国におよぶ海外公演で人気を博し、カーネギーホール出演やベルリンフィルとの共演、独自のコンサート・ツアーの他、近年では2018年「日加修好90周年記念カナダツアー」。同年、パリの日本博「ジャポニスム2018」フィルハーモニー・ド・パリ公演はソールドアウトで大成功となった。また、東京五輪・パラリンピック競技大会組織委員会主催「NIPPONフェスティバル」公式映像での音楽、2020年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」テーマ曲、劇中曲でのソリスト参加や、藤倉大など現代曲の新作初演も多い。東京藝大客員教授、筑波大学院講師など歴任。

2021年演奏活動50周年、2022年は独奏40周年を迎える。1997年芸術選奨文部大臣賞、2001年日本伝統文化振興賞、2017年松尾芸能賞大賞、2021年JST山本邦山記念賞、2023年第32回福岡アジア文化賞大賞を受賞、秋には旭日小綬章を受章した。

<http://www.eitetsu.net/>

にいがき 新垣隆 (ピアニスト・作曲家)

1970年東京都出身。4歳よりピアノを始める。桐朋学園大学音楽学部作曲科卒業。作曲を南聡、中川俊郎、三善晃、ピアノを森安耀子の各氏に師事。2015年「ピアノ協奏曲新生」、2016年「交響曲連祷 Litany」を発表。コンサートのための作品、バレエ、映画、ゲームなど様々なジャンルの作曲も手がける。川谷絵音プロデュースのバンド「ジュニーハイ」にキーボードとして参加。2018年、桐朋学園講師に復職。2019年、富山桐朋学園大学院大学特任教授に就任。2020年、大阪音楽大学客員教授に就任。教育の分野において重責を担う。日本現代音楽協会、日本演奏連盟会員。

英哲風雲の会 上田秀一郎/はせみきた/木村優一/田代誠/辻祐

林英哲の弟子ユニット。1995年結成。「風雲の会」とは熟語の「英主と賢臣とが会おうこと、志を遂げる好機」から採ったもので、プロ活動を志す若手奏者の育成とその活躍の場を提供する目的で結成。13名による初作品「七星」を始め、林英哲コンサートメンバーとして



Photo:M.Tominaga



多くの舞台作品に参加。海外ツアーや、オーケストラ、邦楽、邦舞、歌舞伎、ジャズなど、多様な場での経験を元に、各自が独自のソロ活動を展開している。2012年、国立劇場『日本の太鼓』公演では、林英哲監修『光の群像』と題し、メンバー創作曲を中心にトリを務めた。音楽経験を積んだプロの打ち手として、その圧倒的なパフォーマンスは海外でも大反響を呼んでいる。今回のコンサートではメンバーの中から、神戸出身の上田秀一郎、木村優一と、他にははせみきた、田代誠、辻祐の5名が出演する。